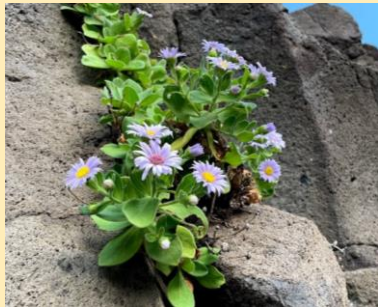


オキ探 -10月の隠岐の自然- 11月号

菊（キク）が咲きほこる秋

秋も深まるころ、隠岐のいたるところに様々な菊（キク）の花が見られます。とくに海岸の岩場には張り付くようにダルマガクが咲きます。また、隠岐の固有の植物である、オキノアブラギクも見ることができます。



ダルマガク（達磨菊）

西日本の対馬海流に沿った海岸の岩上に生える。紫の大きな頭花（とうか）に毛が密集した分厚い葉が特徴的。

島根県：準絶滅危惧



オキノアブラギク（隠岐の油菊）

隠岐と山口県の見島（みしま）の他山陰から九州北部の日本海側に分布する。10月～11月にかけて鮮やかな黄色い花が咲く。

場所：久見（島後）
撮影日：2021年10月23日



普通は紫色だが稀に白花のダルマガクも咲く。



岩上に咲くダルマガク



海岸沿いに並ぶダルマガクとオキノアブラギク

スタッフが観察した植物



ヨシノアザミ（吉野薊）

名は植物学者の吉野善介に由来する。近畿、中国、四国地方の山野によく見られる。

花期：9～11月

場所：大満寺山（島後）

撮影日：2021年10月21日



ガマ（蒲）

ガマの仲間の花粉には止血効果があり、古事記では大国主命がガマの穂で因幡の白兔の傷を癒し助けたとされている。

花期：6～8月

場所：油井（島後）

撮影日：2021年10月27日



ダイモンジソウ（大文字草）

花が大の字に似ることから名がつけられた。山地の湿った岩上などに生える多年草。隠岐では海岸の岩場などでも見られる。

花期：7～10月

場所：大満寺山（島後）

撮影日：2021年10月21日



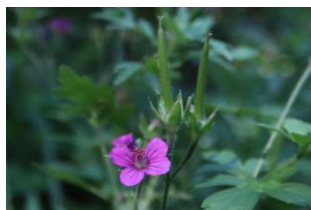
キッコウハグマ（亀甲白熊）

山地のやや乾いた木陰に生える小さな多年草。小さく可憐な白い花を咲かせる。

花期：9～10月

場所：大満寺山

撮影日：2021年10月16日



ゲンショウコ（現の証拠）

下痢止めの民間薬として有名で、飲むとすぐに薬効があるということからこの名がついた。

花期：7～10月

場所：伊後

撮影日：2021年10月26日



アキノキリンソウ（秋の麒麟草）

日当たりの良い山野などに生える高さ30～80センチの多年草。

別名アワダチソウともいう。

花期：8～11月

場所：奥津戸

撮影日：2021年10月3日



ツバキ（石菖）

艶菖（つやぶき）：葉に光沢があるフキの意味）がなまってこの名がついたとされる。葉の茎は食用とされ、隠岐では海岸で多くみられる。

場所：焼火山（西ノ島）

撮影日：2021年10月6日



アケボノシュスラン（曙繻子蘭）

花の色を朝の空にたとえたことからこの名がついた。姿も花も目立たないが、薄ピンクの美しい花を咲かせる。

花期：8～9月

場所：高崎山（西ノ島）

撮影日：2021年10月7日

スタッフが観察した植物

**アキグミ (秋葉萸)**

沿岸～山地の林縁や原野に生える。果実は秋ごろに赤く実り、熟したものは食べることができる。

花期：4～5月 果実：9～11月

場所：尾白鼻海岸

撮影日：2021年10月21日

**サルトリイバラ (猿捕茨)**

林縁や明るい林内に生える。隠岐ではカタリと呼ばれ、葉は団子を包むのに使われる。11月頃になると赤い実をつける。

花期：4～5月 果実：10～11月

場所：尾白鼻海岸

撮影日：2021年10月21日

参考文献
林 将之 (2016) 山溪ハンディ図鑑14樹木の葉、759pp、山と溪谷社、東京
林 弥栄・門田裕一・平野隆久 (2019) 山溪ハンディ図鑑1野に咲く花、664pp、山と溪谷社、東京
門田裕一・永田芳男・畔上能力 (2018) 山溪ハンディ図鑑2山に咲く花、616pp、山と溪谷社、東京
島根県環境生活部自然環境課 (2013) 改訂しまねレッドデータブック2013植物編、254pp、公益財団法人しまね自然と環境財団、島根

スタッフが観察した動物

**アカスジキンカメムシの幼虫**

歩く宝石と呼ばれる昆虫。写真は成虫になる一段階前の終齢幼虫。成虫になると、緑と赤のメタリックな色に変身する。

場所：伊後

撮影日：2021年10月26日

**チャパネセセリ**

茶色いセセリチョウ。セセリとは、尖ったもので突きまわす「せせる」という言葉が名前の由来。実際にセセリチョウはストロー状の口を突き立てて花の蜜を吸う。

場所：一宮神社 (知夫理島)

撮影日：2021年10月30日

**イトマキヒトデ**

日本沿岸で普通に生息するヒトデ。5本の腕が一般的で、和名も星形の腕が糸巻きに見えるため名付けられた。今回発見したのはまれにみられる7本腕。ラッキー☆

場所：津戸

撮影日：2021年10月24日

**ニホンカナヘビ**

尻尾が体の長さの半分以上になる日本固有のトカゲ。危険を感じると尾を自切して逃げる。恐竜のような顔つき。

場所：大満寺山

撮影日：2021年10月21日

**ジョロウグモ**

大型の肉食グモ。写真はメス。オスは、メスの1/3の程度の大きさで、メスの巣に寄生する。

場所：奥津戸

撮影日：2021年10月3日

**モクズガニ**

ハサミ足に毛が密集していて、「藻くず」に見えるためこの名前が付いた。普段は川で暮らし、産卵時に海に下る。茹でたり、汁にするととても美味しい。

場所：中村海水浴場

撮影日：2021年10月27日

スタッフのひとりごとと風

草原植物の運び屋

10月に知夫の道路を車で走っていると、面白い牛に会いました。全身に白い何かを付けています。よく見てみると、それはたくさんの植物の種やわたげでした。まるで服を着ているかのようです。

牛についていた植物はセンニンソウやひつつき虫で有名なオナモミです。毛にくっつきやすい種を作って、牛に運ばれて広がっているんですね！また、センニンソウとオナモミは有毒で牛や馬は食べられません。牛と共に生きる、なんとも賢い植物です。



上：たくさん種子をつけた牛
左：センニンソウの種子

【お問い合わせ】

(一社) 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会

担当：立花

TEL：08512-3-1321 Fax：08512-3-1322 Email:info@oki-geopark.jp



隠岐の大切な自然を守るために、**ルールとマナーを守りましょう。**

自然公園では動植物を許可なく採取することは法律で規制されています。